



# 麻里布小だより



<http://www.edu.city.iwakuni.yamaguchi.jp/site/marifu-e/>

令和7年2月号 大野元良

## 春を待つ「如月」！

1月8日から、元気な子どもたちが学校に戻ってきました。2学期と同様に元気なあいさつで3学期がスタートしました。表情からは、新しい年を迎えた清々さと、「やる気」が伝わってきました。

始業式では、「にこにこ」「わくわく」「どんどん」を大切にしながら今の学年のまとめと、進級・進学に向けて、目標をもって頑張ることの大切さを伝えました。生徒指導主任からは、気持ちのよいあいさつができるようになったことを価値づけるとともに、学校評価の結果をふまえながら、家庭や地域でもしっかりとあいさつができるようにしようと投げかけました。コミュニケーション力向上の第一歩と捉えて、指導を継続します。

3学期が始まり間もない中ですが、もうすぐ2月「如月」。「如月」の由来は、「衣更着」(※衣を重ね着するほど寒い時期)や「生更木」(※陽気が更に訪れる。春に向けて草木が生え始める時期)という説もあります。

今しばらくは寒い日が続きますが、春の到来を心待ちにしながら、学年のまとめが充実したものとなるように教育活動を展開してまいります。引き続き、ご協力をよろしくお願いいたします。



## 阪神大震災から30年 ～防災意識を高く～

多くの方がお亡くなりになり、甚大な被害をもたらした阪神大震災の発生から、30年の時が経過しました。建物や高架道路の倒壊、大火災等の衝撃の光景を思い出しますが、日々の生活の中では、情報が風化してきている印象も拭えません。一方で、災害ボランティアの活躍や、人と人のつながりの大切さが見直される等、「共助」の考え方が立ち上がった印象が強く残っています。当然のことながら、子どもたちは与えられた情報でしか知ることができない史実です。

こうしたことを踏まえながら、「当たり前」の日常が、一瞬にして当たり前でなくなる「災害」を自分事として考え、災害に備えることの大切さを再確認した1月17日でした。いつ発生するか予測が困難な災害です。学校においては、避難訓練等の指導をとおして、子どもたちの危機管理・防災意識を高めていきたいと思えます。

ご家庭では、災害への備えとして様々なことを想定されていることと存じますが、今一度「家具の置き方、固定等の工夫」「食料や飲料などの備蓄」「非常持ち出しバッグの準備」「家族間の安否確認方法」「避難場所や避難経路の確認」等について話題にしていきたいと思えます。



## ～麻里布地域で育てたい児童生徒像は？～

1月17日に、第2回麻里布地域協育ネット協議会を開催しました。麻里布小・麻里布中の学校運営協議会委員の皆様とともに、麻里布中学生徒会執行部、麻里布小学校運営委員会の児童生徒で話し合いをしました。改めて、児童生徒につけたい力について考え、そのためにどのような取組ができるだろうかという視点で意見交換しました。委員の皆様には、温かく児童生徒の声に耳を傾けていただくと同時に、貴重なご発言をいただきました。また、児童生徒が、自分の考えを積極的に表現できる姿に感心しました。小中学生が交流する場面をつくることや、学力向上のために読書が大切である等の意見発表がありました。



～「安心・安全(にこにこ)」「交流(わくわく)」「探求(どんどん)」～